

存在感って？見えぬ正体

手放してみても、初めて気づく価値がある。新型コロナウイルスの影響で外出を控える動きが広がり、急速に失いつつある対面の「存在感」もその一つだ。今思えば、人のたずまいや雰囲気は空気のような存在だったが、一定の役割を果たしていた。テレワーク（在宅勤務）も各地で始まり、「人の存在感とは何か」の謎解きに加え、離れた場所に存在感を伝える難しさに私たちは直面している。

「人の上半身が映る画面から5本指のロボットハンドが突き出る。片手で握ると、相手がそこにいるかのように握り返した。開発した大阪大学の中西英之准教授は「相手の存在感を強く感じる」と話す。ハンドは指の部分に圧力センサーがある。手の圧力を感じ、遠方にあるもう一方のハンドに伝える。このしくみに「バーチャルユーザーインターフェイス（Vチューバー）」を展開するハロー（東京・渋谷）が、2019年に協力を打ち切った。完成したのが、画面のキヤラクターと「手」をつなげるシステムだ。「お化け屋敷で怖がる手を強く握る」。相手の存在を強く意識できるのは握手だと担当者は考えた。触覚が伝える「画面上の彼女」の存在感に、涙したファンもいた。

だが新型コロナウイルスの感染を恐れて握手の自粛が始まると、触覚から存在感の正体を探る試みは様子見となった。人の存在感は「たずまい」「雰囲気」など様々な言葉で言い表してきた。何がそこにあるはずだが、正体は謎に包まれている。その正体に世界で最も迫った一人が大阪大学の石黒浩栄准教授だ。自分そっくりのアンドロイドを作り、見た目の形さえ似せれば本人と同じ存在感を醸し出せるのかを実験してきた。「人の存在感は、そこに何かがあるか、そこに何かが本人の姿が見えなくて、むしろ本人の想像力を引き出す。見る側の想像力を引き出す。試みにオーストリアの美術館にアンドロイド（人間）を置いた。日本にいる人の唇や頭に目印を付け、カメラでとらえて動きをアンドロイドに送る。唇や頭の動きを再現すると、現地の人々と円滑に対話できた。ささいなしぐさによって、機械に本人と遜色ない存在感が表れた。

も、見る側の想像力を引き出す。試みにオーストリアの美術館にアンドロイド（人間）を置いた。日本にいる人の唇や頭に目印を付け、カメラでとらえて動きをアンドロイドに送る。唇や頭の動きを再現すると、現地の人々と円滑に対話できた。ささいなしぐさによって、機械に本人と遜色ない存在感が表れた。人の存在感は共通の要素から生まれてくるのかもしれない。同志社大学の板倉昭二・赤ちゃん学術センター長は「赤ちゃん学術センター長はだいたい減るはず」と話す。「画面には正面を向いた参加者の顔が並ぶ。不自然で、円滑な会議を阻害しかねない」と話す。平常心を保てるかも大切だ。テレワークの心得として、仕事に集中できる静かな環境や、非公式な会話で同僚や上司、顧客とつながり続けることも重要になる。

存在感の研究は、どう利用するかに焦点が移りつつある。あらぬ方向に研究が進むと人の存在感の「商品化」になる。（草塩拓郎）



画面の登場人物と手をつないでデートできるシステムを開発した＝ハロー提供



画面の下のロボットハンドと握手ができる＝ハロー提供



大阪大学の石黒浩栄准教授（左）と、本人そっくりのアンドロイド＝阪大提供



埼玉大学は離れた場所にいる人と買い物を楽しむシステムを開発した＝埼玉大提供

コロナ「画面越し」に難しさ

テレワーク 過密回避で急速に普及



勤務時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働く勤務形態。在宅勤務やリモートワークなども呼ぶ。都市の過密が問題になった1970年代から注目を集めてきたが、2000年代に入りIT（情報技術）が進歩したことで可能性が広がった。新型コロナウイルス感染症の流行で外出の制限や自粛が増えるなか、世界でテレワークを活用する人が増えた。職場まで移動せずにすむために時間を節約できる。一方で同僚や上司、取引先と細かいコミュニケーションを取れずに孤立感を感じたり、合意形成や意思決定に時間がかかったりする場合もある。